

『日本聖公会の中で 一番新しい教会の新しい礼拝堂』

インマヌエル新生教会 司祭 卓 志雄

2020年10月31日の起工式をもって始まった「インマヌエル新生教会の新礼拝堂及び牧師館の建築」は神様の導きと東京教区の皆さんのお支えによって、今年8月16日無事完成を迎えました。現在、新型コロナウイルス感染防止に細心の注意を払いながら、11月6日の礼拝堂聖別式に向けて準備を進めています。

インマヌエル新生教会の教会建築において、新型コロナウイルス感染拡大は奇しくも



重要な出来事となりました。未だかつて経験したことのない「パンデミック」状況の中で建築をどう進めるか、いえ、進めるかどうかから議論を積み重ねました。

キリスト教会は、常に変化の中で変わらない、変えてはならない

大事なものを守るために、敢えて変えることを選んで主の福音を宣べ伝えてきました。「宣教」「礼拝」「交わり」「奉仕」など教会の大事な働きを今までより丁寧にかつ積極的に実践していくために池袋聖公会、東京聖マウルチン教会、練馬聖ガブリエル教会は2019年インマヌエル



ル新生教会として誕生し、大きな変化をもたらす営みの象徴として新礼拝堂建築を捉えてきました。三つの教会が一つとなり機運がこれ以上になく高まっていると思われ、また「今」でないと建築を進める力がなくなってしまうかもしれないという判断があつたため「やるリスク」を選びました。「やるリスク」と「やらないリスク」はどの組織においても常に存在するものではないでしょうか。パンデミックにおいては先行きに対する不安からどうしてもやるリスク

の方に気を取られてしまいがちですが、未曾有の状況においては当たり前だったかもしれない「変化をもたらし方がある今」やらない方を選択したら、いつかリスクは逆転し、ある日教会は変化をもたらす力を失い、動けなくなってしまうのではないかと。そうなる前に敢

えて教会は「やるリスク」を選び、建築を進めながらリスクを回避し共に歩むことを決心し、三つの教会が持ち寄った「賜物（祈り・奉仕・財政・伝統の力）」を合わせ、外部募金に頼らず自己資金のみで、礼拝堂建築を行うことにしたのです。

これまで新型コロナウイルス感染防止のため新しい礼拝堂の建築現場に自由に近づくことも許されず、長い間礼拝休止になっていたこともあり、建築完成の実感が持ちづらい状況です。でも、後もう少しです。新しい礼拝堂は東京教区の皆さんを待っています。新型コロナウイルス感染



の心配が少なくなり、皆が新しい礼拝堂に集まれる時が必ずやってきます。

ウィズコロナにおいても、ポストコロナにおいてもインマヌエル新生教会の新礼拝堂がイエス様と隣人を覚えて共に礼拝を献げる場所となりますように。イエス様と隣人と共に愛の交わりを深める場所となりますように。イエス様の代わりにイエス様の愛と恵みが必要とする隣人に仕える場所となりますように。全ての人々の癒しと慰めの場所となりますように、東京教区の皆さんと共に祈りを献げたいと思います。